

## 第2回 設計コンサルタント業務等成果の向上に関する懇談会 議事概要

1. 日 時 : 平成18年10月31日(火) 15:00~17:00

2. 場 所 : ホテル ル・ポール麹町 2F サファイア

3. 出席者 : 別紙参照

### 4. 議事概要

コンサルタント業務をとりまく現況について

- コンサルタント業務は事業の上流側で実施されることから、発注者に近いところの業務となるのでお互いに緊張感を持って履行する環境にすべきではないか。
- 現在のコンサルタント業界の競争は、他産業と比べ本当に過当競争と言えるのかは疑問を感じる。
- 議論の展開として「低入 成績が悪い 価格競争を止める」とならないようにすべきではないか。
- 成績の悪い者、設計ミスをおこす者などは、参加資格の段階で切れるような資格要件を設定すべきではないか。
- 設計ミスは極力なくす又は、根絶するための取り組みは各社行っているところである。設計ミスをなくすことができない者は淘汰されてもやむを得ないと思う。
- 現在の業界が他産業と比べてどのくらい厳しいかは今ひとつ理解しにくい。例えば、利益率が他産業と比べてどのくらい違うのか。
- 利益率の明確な数値はお示しできないが、他産業に比べかなり低いことは確かであり概ね工事と同等である。しかし、資材等が多くを占める工事とほぼ同等であるということは異常である。
- 低入札を行った者でも、中には利益を確保できている者もいると思う。低入札を行った者でも、合理性のある者もいるのではないか。

総合評価の導入

- コンサルタント業務の業者選定はプロポーザル方式などにより「技術力」を評価し選定すべきではないか。
- 現在のプロポーザル方式は適切に運用されているので、総合評価方式は従来の価格競争の分野にのみ導入すべきではないか。
- 総合評価の「技術：価格」の重み付けは、価格の要素が重くならないよう幾つかのパターンで試行を重ね適切な重みを継続的に検討すべきではないか。
- 総合評価の「技術：価格」の重みは、業務の種類毎に設定する必要がある。
- 価格競争における低入札が増加するに従って、ミスも増加している傾向がある。
- 本懇談会は総合評価方式の導入範囲を決めていく方向性について議論していくものと考えている。そのためには、プロポーザル方式とそれ以外の成績の違いもわかる資料を提示して欲しい。

- 現在、本来はプロポーザル方式を活用するとなっている業務について価格競争で行われているものがあることは事実である。  
今後、プロポーザル方式を活用すべき業務を明確にしていくべきである。
- 総合評価方式導入の検討に際しては、プロポーザル方式や競争入札方式の方向性も併せて整理すべきではないか。  
現在のプロポーザル方式の問題点も抽出し、改善の余地があるのかを整理してほしい。

#### 設計照査制度

- 今後の方向性を議論するためには、現状をどう捉えるかは大切なことである。  
設計ミスの内訳を「プロポーザル方式」と「価格競争」に分けて提示されたい。
- ドイツの方式はモニタリングを重視、アメリカの方式はペナルティーによるインセンティブを与える方法である。費用等を考慮するとインセンティブの面で制度設計を行う方が良いと思う。
- ドイツの方式の場合、その費用は概ね事業全体の1～1.5%と聞いており非常に大きいものである。
- 海外の事例も参考にはするが、必ずしも同じものである必要はない。日本にあった制度を考えるべきである。
- 第三者による設計照査を同業者に依頼した場合、元のコンサルタントへの配慮もありチェックが機能しない。  
例えば、設計照査を行う第三者として、海外の業者や異業種など同業者以外の者を活用するのも一つの方法と考えられる。
- 検討の流れとして、新たな方式を提案しているが、まず現行制度の問題点を分析し何が原因で設計ミスが発生しているかを明らかにすべきではないか。
- 設計ミスは「多い企業」と「少ない企業」に大別できる。ミスを頻発する業者を入場制限する等の施策も必要である。  
全体として設計ミスが多いということだけを捉えているが、その原因を分析すべきではないか。  
日額単価の減少、職員数の減少、利益率の減少等により悪化している職務環境を改善する必要があり、年度末納期の集中撤廃、適切な工期の設定、適正な報酬の算定等の課題解決に期待したい。  
照査業務については必要な費用を計上した上で、建コンが受ける意向である。
- 照査技術者及び発注者検査も機能していないことが判った。
- 実行可能な制度とするための検討の方向性として以下の意見が出された。
  - 1) インセンティブの働く方式を検討すべき。
  - 2) 第三者とは具体的に誰ができるのかを検討すべき。
  - 3) そもそも、設計ミスの発生原因を分析し、その上で対策として設計照査以外の方法もあるのか等を明らかにすべき。
 次回以降、引き続き検討して行きたい。

#### 今後の予定

- 今後の議題として多数出ているが、「適切なフィーの算定」など検討に時間を要するものがある。議題について優先順位などをつけて再整理していただきたい。

## 第2回

## 設計コンサルタント業務等成果の向上に関する懇談会

## 委員名簿

## 委員

座長	おざわ 小澤	かずまさ 一雅	東京大学大学院工学系研究科	教授
	みやもと 宮本	かずあき 和明(欠席)	武蔵工業大学環境情報学部環境情報学科	教授
	おおはし 大橋	ひろし 弘	東京大学大学院経済学研究科	助教授
	はたなか 畠中	かおり 薫里	政策研究大学院大学	助教授
	ひろたに 廣谷	あきひこ 彰彦	(社)建設コンサルタンツ協会	副会長
	きくち 菊地	よしのり 良範	(社)建設コンサルタンツ協会	関東支部企画部会副部会長
	まえかわ 前川	ひでかず 秀和	国土交通省大臣官房	技術調査課長
	おち 越智	しげあ 繁雄	国土交通省河川局治水課	事業監理室長
	いしはら 石原	やすひろ 康弘	国土交通省道路局国道・防災課	国道事業調整官
(代理)	もりた 森田	やすお 康夫	国土交通省道路局国道・防災課	企画専門官
	まつばら 松原	ゆたか 裕	国土交通省港湾局建設課	建設企画室長
	にしかわ 西川	かずひろ 和廣	国土技術政策総合研究所総合技術政策研究センター	長
	まつもと 松本	なおや 直也	関東地方整備局	企画部長
	ぬかが 額賀	かつひろ 勝弘(欠席)	関東地方整備局	総務部 契約管理官
	よしだ 吉田	たかき 高樹	関東地方整備局	企画部 技術開発調整官
	わたなべ 渡邊	やすなり 泰也(欠席)	関東地方整備局	河川部 河川調査官
	やまうち 山内	まさひこ 正彦	関東地方整備局	道路部 道路企画官

## オブザーバー

	よしの 吉野	やすひろ 裕宏	国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課	営繕技術基準対策官
--	-----------	------------	-------------------	-----------

## 事務局

国土交通省 大臣官房 技術調査課  
 関東地方整備局 企画部 技術管理課  
 (社)建設コンサルタンツ協会